

2026 年 8 月 31 日

東京海上レジリエンス株式会社

宇宙戦略基金事業「フェーズフリー防災対応 AI 衛星観測指揮と マルチモーダル 3D デジタルツイン基盤開発」に連携機関として参画

東京海上レジリエンス株式会社(代表取締役社長:原田 秀美、以下「東京海上レジリエンス」)は、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(以下、JAXA)が公募を行った宇宙戦略基金事業において、株式会社スペースデータ(代表取締役社長:佐藤航陽、以下、スペースデータ)が代表機関として提案・採択された、技術開発課題「フェーズフリー防災対応 AI 衛星観測指揮とマルチモーダル 3D デジタルツイン基盤開発」に連携機関として参画いたします。本プロジェクトは、スペースデータが代表機関となり、東京大学、三菱電機株式会社(以下、三菱電機)、衛星データサービス企画株式会社(以下、衛星データサービス企画)等とともに開発・実装を進めます。

1. 宇宙戦略基金事業の概要

宇宙戦略基金事業は、産学官の結節点として、我が国の宇宙開発の中核機関である宇宙航空研究開発機構(JAXA)に設置した基金を活用し、民間企業・大学等が複数年度にわたって大胆に研究開発に取り組めるよう支援を行うものです。「宇宙技術戦略」等を踏まえ、内閣府主導の下、4 府省(内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省)が連携し、本事業の制度設計を定める基本方針や個別の技術開発テーマを定める実施方針を策定し、民間企業、スタートアップ、大学・国立研究開発法人等に対する、先端技術開発、技術実証、商業化等の支援を行います

*宇宙戦略基金概要 <https://fund.jaxa.jp/about/>

2. 採択テーマの内容

技術開発テーマ名:衛星等(第二期)「地球環境衛星データ利用の加速に向けた先端技術」

本テーマでは、「エンドユーザーまで届けきる」ことを前提に、実社会のニーズに精通した事業者等と、最先端技術の研究者等が連携した体制の下、地球環境衛星データを主軸に、生成 AI、数値モデル、社会経済モデル、大規模言語モデル(LLM)などを組み合わせ、ニーズに即した多様なデータを統合する革新的なシステム(集合知モデルと定義)の研究開発を推進します。

技術開発課題:「フェーズフリー防災対応 AI 衛星観測指揮とマルチモーダル 3D デジタルツイン基盤開発」

フェーズフリー防災(平時から利用可能で有事に機能する防災ソリューション)を実現するため、衛星・大気・地形・社会データ等のマルチモーダルなデータを統合し、災害状況の可視化・予測判断支援を行うマルチモーダル 3D デジタルツイン基盤を開発。データの取得に AI 衛星オーケストレーション基盤(衛星観測や観測指揮などを含む)と連携し、異常兆候の検知から衛星観測の実施とデータ解析までを自動化。様々なデータ更新に対応し、災害状況の変化に合わせた可視化と意思決定を支援する仕組みを導入するとともに、防災訓練や対策立案の

災害模擬シミュレーション環境として活用し、避難行動や被害拡大の因果関係を可視化・再現、国内外の防災・都市計画等に資する情報サービスとして事業化を目指します。

3. 今後について

当社は、連携機関として、AI 衛星オーケストレーション基盤構築に関わり、三菱電機や衛星データサービス企画などと協力して、AI 衛星オーケストレーション基盤検討、AI 衛星オーケストレーション事業化の推進を担当します。多様な領域において、平時から有事まで幅広く利用できるフェーズフリーな防災基盤の社会実装を推進します。